加入国際学術団体に関する調査票

1　国際学術団体活動状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="3">団体名</td><td>和</td><td>国際数学連合</td></tr>
<tr><td>英</td><td>International Mathematical Union（略称　IMU）</td></tr>
<tr><td>団体 HP（URL）</td><td>http://www.mathunion.org/
（日本学術会議が加盟していることの記載　㊒　・　無　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際学術団体における最近のトピック
（学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）</td><td>IMU は発展途上国委員会(CDC: Commission for Developing Countries)を設立し,発展途上国の数学と数学者を支援するための全ての主導権をまとめた．数学者のための助成金プログラム，　サブサハラアフリカの数学大学院生のための広範な奨学金プログラム，開発途上国の若い数学者の育成に従事するボランティア講師の募集がある．</td></tr>
<tr><td colspan="2">当該国際学術団体が対応する分野において学術の進歩に貢献した事例</td><td>数学の国際協力の促進，国際数学者会議（ICM）やその他の国際科学会議の支援・助成，科学賞の授与による数学への卓越した研究貢献の承認，純粋・応用・教育の各側面において数学科学の発展に貢献すると考えられるその他の国際的な数学活動の奨励・支援を行っている．</td></tr>
<tr><td colspan="2">政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等</td><td>女性数学者委員会(CWM: Committee for Women in Mathematics)は，世界中の女性数学者に関する問題に取り組んでおり，ICM のサテライトイベントとして，女性数学者のための世界会議（WM^2）を開催している．また，電子情報通信委員会(CEIC: Committee on Electronic Information and Communication)は，数理情報，通信，出版に関する事項について IMU に助言を行い，双方で「数理資本主義」の到来に備えている．</td></tr>
<tr><td colspan="2">日本人役員によるイニシアティブ事項や日本の参加によって進展や成果があった事例</td><td>日本の数学の国際的評価は高く，IMU では最高位グループ５を占めている．前々総裁・森重文（京大）はアジア初の総裁でありフィールズ賞受賞者である．これまでフィールズ賞受賞者３名（小平，廣中，森）を輩出した．　伊藤の確率解析で有名な伊藤清は第１回ガウス賞に輝き，数理科学のみならず，経済，金融界でもその名を轟かせている．2018 年 ICM では柏原正樹（京大）がチャーン賞受賞者に輝いた．ICM は 4 年に一度の国際数学者会議であるが，日本人招待講演者も多数である．また中島啓（東大）は現在 IMU 総裁であり，国際的な指導者として高い評価を受けている．2025 年は数学のノーベル賞と称されるアーベル賞を日本人で初めて柏原正樹（京大）が受賞した（石光会長の談話あり）．</td></tr>
<tr><td colspan="2">当該団体に加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民にとってのメリットや変化</td><td>IMU は数学分野における国際協力を目的とした国際学術会議(ISC)の構成機関である．会員は 80 か国以上の各国の数学団体で構成され，数学界で最も重要な国際イベント国際数学者会議(ICM)を主催している．日本学術会議が加入することにより，国際的および国内的な数理科学の振興，普及および社会貢献に寄与できる．また，最高位のグループ５の会員として参加することで，予算や活動に対する日本の意見や，総会へ派遣評議員の決定に大きな影響力を持つ．更に IMU に関する役員等の推薦，フィールズ賞，ガウス賞などの各賞の受賞者の推薦，国際会議等への代表の派遣に対して本 IMU 分科会が主導権を発揮することで，我が国の数学の地位が向上し，国民に希望と夢を与えることができる．国際会議等の日本での開催・招致に関して優位に立つことで，我が国が数理学分野で国際的拠点としての地位を確立することに繋がる．</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）</td><td>IMU は国際数学教育委員会（英語版）(ICMI)のプログラム，展示会，ワークショップなどで，特にアジアやアフリカなどの新興国での活動を支援している．
2008 年にアフリカにおける数学の現状と，数学的発展を支援するための新たな取り組みの機会についての報告書
” Mathematics in Africa: Challenges and Opportunities”（アフリカにおける数学: 挑戦と機会）を刊行した．2014 年に，IMU の発展途上国委員会(CDC)が報告</td></tr>
</table>

	書の更新版を発表した．更に，ラテンアメリカやカリブ海諸国，東南アジアにおける数学に関する報告書も発行した．更に 2022 年には女性を対象としたラジゼンスカヤ賞（対象は数理物理学）が新たな表彰として加わり，女性数学者及び物理学者の育成に取り組んでいる．

2　今後の予定について（内規第 11 条　活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定（招致等の予定も含む）	IMU2030　Tokyo の総会を検討中．
日本人の役員立候補等の予定	中島啓（東大教授，本 IMU 分科会委員）が現在総裁であり，2026 年～2030 年は IMU 理事として就任することが決まっている．
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動き	第 26 期数理科学委員会の IMU 分科会（第 1 回），数学分科会（第 2 回）の双方において ICM2030 の日本へ招致の可能性について議論を行った．それを踏まえて，日本学術会議会員・連携会員を中心として招致準備委員会（会長は小谷元子（国際学術会議（ICS）会長））を設立し，2026 年 IMU 総会において開催地立候補を計画中である．

3　国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条　活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況（過去５年間及び今後予定されているもの）	総会開催状況	2022 年（開催地：ヘルシンキ）、　2026 年（開催地：ニューヨーク）
	理事会・役員会等開催状況	2022 年（開催地：ヘルシンキ）、　2026 年（開催地：ニューヨーク）
	各種委員会開催状況	2022 年（開催地：ヘルシンキ）、　2026 年（開催地：ニューヨーク）
	研究集会・会議等開催状況	2022 年（開催地：ヘルシンキ）、　2026 年（開催地：ニューヨーク）
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2022 年，IMU 総会（ヘルシンキ），6 人（うち代表派遣：小澤徹，齋藤政彦，伊藤由佳理，小薗英雄，清水扇丈） 2022 年, ICM サテライトコンファレンス）6 人（招待講演者：横山啓太，加藤周，市野篤史，中西賢次，緒方芳子，舟木直久）

国際学術団体における日本人の役員等への就任状況（過去５年）	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	理事	2019～2022	森重文	（　　期）会員・連携
	総裁	2023～2027	中島啓	(26 期）連携会員
	CWM 拡大委員	2019～2022	小谷元子	(26 期）連携会員
	電子情報委員	2023～2026	熊谷隆	（　　期）会員・連携
	リーラバッティ賞選考委員	2022～2022	時枝正	（　　期）会員・連携
	チャーン賞選考委員	2022～2022	中島啓	(26 期）連携会員
		～		（　　期）会員・連携

出版物	1　定期的（年６回）主な出版物名　IMU News 2　不定期（4 年に一度）主な出版物名　Proceedings of the International Congress of Mathematicians
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://www.mathunion.org/membership/imu-bulletins)	

４．国際学術団体に関する基礎的事項（内規第３条、４条、５条）

<table>
<tr><td rowspan="3">国内委員会（内規4条第3号）</td><td>委員会名</td><td>IMU 分科会</td></tr>
<tr><td>委員長名</td><td>小薗英雄</td></tr>
<tr><td>当期の活動状況</td><td>（開催日時　主な審議事項等）
第 25 期・第４回　令和４年３月 15 日（火）13:00-14:00
・IMU GA の準備状況について
・ICM 2022 の準備状況について
第 25 期・第５回　令和４年９月 26 日（月）14:30-16:30
・Japan Forum の報告
・IMU2022 総会の報告
・ICM 2030 の日本開催の可能性について
第 25 期・第６回
メール審議：令和４年 12 月１日（木）～12 月５日（月）
・公開シンポジウム「数理科学の展望―国際的展開と諸科学・産業との連携拡大を探る（仮題）」の承認について
第 26 期・第１回 令和６年８月 23 日（金）15：00～17：00
・委員長の互選、副委員長・幹事の指名について
・議事要旨の提出に関する委員長一任について
・分科会委員間のメールアドレス共有について
・ICM2026 の各賞の候補者ノミネートについて
・ICM2030 について</td></tr>
<tr><td rowspan="3">内規第３（国際学術団体の要件関係）</td><td colspan="2">国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である
①．該当する　　２．該当しない
※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載
（ https://www.mathunion.org/organization/statutes）</td></tr>
<tr><td colspan="2">各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）
①．該当する　　２．該当しない
※根拠となる資料の添付又は URL を記載
（https://www.mathunion.org/membership/imu-members）</td></tr>
<tr><td colspan="2">下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに〇印）
㋐ 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの
イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの
ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの
エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td colspan="2">10ヵ国を超える各国代表会員が加入している
①．該当する　　２．該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">加入国数及び主要な各国代表会員を10記載</td><td>（８５ヶ国）</td></tr>
<tr><td>・各国代表会員名／国名
National Research Council of Canada (Canada), London Mathematical Society (England), Comite National Francais des Mathematiques (France), Deutsche Mathematiker-Vereinigung (Germany), Israel Academy of Sciences and Humanities (Israel), Science Council of Japan (Japan), Norwegian Academy of Science and Letters (Norway), Russian Academy of Sciences (Russia), Swiss Mathematical Society (Swiss),
U.S. National Academy of Sciences (USA)</td></tr>
</table>

(参考)
国内関係学協会（主要５団体）
一般社団法人日本数学会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人統計関連学会連合、一般財団法人数理科学振興会、一般社団法人数学教育学会